

平成20年12月5日
企画部地域計画課長 加藤木 高夫
(担当 石島 内線2718)

平成20年度地域づくり総務大臣表彰の受賞について

総務省が実施する、魅力あふれる地域づくりに顕著な功績のあった自治体及び地域づくり団体等を表彰する「地域づくり総務大臣表彰」について、「茨城県大子町」が本年度の受賞団体に決定されましたのでお知らせします。

記

○受賞団体 茨城県大子町

○受賞部門 地方自治体表彰(頑張る地方応援表彰)

○活動概要

(1) 大子ふるさと農園整備事業「山田ふるさと農園」の実施

- ・町遊休農地の活用と定住・二地域居住による交流人口の増加を図るため、遊休町有地の一部を無償で20年間貸与する。

(2) 全国に先駆けた「読書のまち」宣言による読書活動を通じたまちづくり

- ・読書のよさを活かし、読書を通じて心の豊かさを育て、読書の素晴らしさを全国に発信するまちづくりを目指している。
- ・ブックスタート(乳幼児絵本配付事業)、読み聞かせ、あさどく(朝の読書)及び全国に先駆けて実施したうちどく(家読)など、各種事業を積極的に推進している。

[参考] 地域づくり総務大臣表彰の概要

(1) 表彰の種類

①団体表彰

②地方自治体表彰(頑張る地方応援表彰)

※地域をより良くしようと尽力された地方自治体を表彰する。

③個人表彰

(2) 受賞団体数 25団体, 4組(5名)(別紙参照)

(3) 表彰式 平成20年12月22日(月)

場所: 虎ノ門パストラルホテル

(4) 本県の過去3年の受賞歴

19年度 特定非営利活動法人遊楽(常陸太田市)

18年度 特定非営利活動法人古瀬の自然と文化を守る会(つくばみらい市)

17年度 特定非営利活動法人まちづくり活性化バス土浦(土浦市)

(5) 所 管 総務省地域力創造グループ地域政策課

別紙**平成20年度地域づくり総務大臣表彰 受賞者一覧****< 団体表彰 >**

田んぼdeミュージカル委員会【北海道むかわ町】
特定非営利活動法人 ジュニアグローバルトレーニングスクール【青森県青森市】
特定非営利活動法人 東鳴子ゆめ会議【宮城県大崎市】
くろほね交流居住支援隊【群馬県桐生市】
日本愛妻家協会【群馬県嬬恋村】
金屋町まちづくり推進協議会【富山県高岡市】
黒川町内会【富山県上市町】
雪だるま倶楽部【石川県白山市】
株式会社 南信州観光公社【長野県飯田市】
特定非営利活動法人 生活バス四日市【三重県四日市市】
京都学生祭典実行委員会【京都府京都市】
特定非営利活動法人 芸術と計画会議【兵庫県神戸市】
コウノトリ野生復帰推進連絡協議会【兵庫県豊岡市】
有限会社 安達商事【鳥取県日野町】
倉敷市インクルージョン推進事業全体協議会【岡山県倉敷市】
特定非営利活動法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会【福岡県北九州市】
特定非営利活動法人 つどいの広場いづか【福岡県飯塚市】

計17団体**< 地方自治体表彰(頑張る地方応援表彰) >**

北海道標津町
宮城県栗原市
茨城県大子町
群馬県上野村
山梨県北杜市
香川県小豆島町
宮崎県
沖縄県南風原町

計8団体**< 個人表彰 >**

皆川トメ子・山内サトミ【福島県昭和村】
羽賀 友信【新潟県長岡市】
セーラ・マリ・カミングス【長野県小布施町】
清水 義康【滋賀県長浜市】

計4組(5名)**合計 25団体、4組(5名)**

区分	都道府県名	団体・個人名	概要	コメント
団体	北海道	田んぼdeミュージカル委員会	映画制作を行うために立ち上がった高齢者とその活動を支援するスタッフにより構成。俳優、スタッフのほとんどが高齢者による自主映画の制作活動は、各方面から評価され地域の自信、自慢となり、地域の活性化につながる取組となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・発想がユニーク。田んぼで元気になる高齢者の活躍は他の模範になる。 ・ユニークな活動である。こうした活動を通じて一体感と元気がでるであろう。
団体	青森県	特定非営利活動法人 ジュニアグローバルトレーニングスクール	事業名「2008 ジュニアグローバルトレーニングスクール in AOMORI」 日本・韓国・中国・米国の小学生が2泊3日の共同生活や文化体験事業をおこなうもので、高校生・大学生等がボランティアとして運営に参加。参加者ならびに運営ボランティア双方の国際感覚ならびに異文化との共生意識を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日韓中米の小学生が2泊3日の共同生活を行うことは、国際交流の面で有益。また、高校生や大学生がボランティアとして参画することも意味がある。 ・市民ボランティアの運営による多様な国際交流事業であり、参画している児童や団体の裾野も広く、まち全体の取組であることが評価される。 ・青年商工会議所、PTAなどが協力して小さな国際人を育てている。特に男親達を中心となって活動しているのは、地域にとって重要なこと。若者たちも数多くボランティアとして関わっていることを評価。
団体	宮城県	特定非営利活動法人 東鳴子ゆめ会議	地域ぐるみで重曹を活用したエコ生活を進め、環境に優しい温泉地を目指している。また、農作業体験をして汗を流し、農家のおいしいお昼ご飯を食べて温泉で汗を流す「田んぼ湯治」や、「山守り湯治」といった地域住民と湯治客が交流しながら、山林の手入作業を行い、作業後の汗を温泉で流す事業などを実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を体験し、農家のおいしいお昼を食べ、温泉に入る。農村の伝統的な生活は、都会の生活に疲れた現代人に「生きるとは何か」との問題を提起するだろう。 ・単なる観光ではなく、自分たちの地域を楽しく生活できるよう工夫しながら温泉を守ってきている点を評価。 ・情報も域内だけでなく全国に発信している点を評価。 ・短期間で形にしている点を評価。
団体	群馬県	くろほね交流居住支援隊	首都圏に在住する『田舎暮らし指向者』を対象に、農作物収穫体験を通じて、生産者等の地域住民との交流促進や『食』に対する意識の高揚を図ることを基本コンセプトにした事業などを実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎暮らしを望む都会人へ農作業体験を通じ食に対する問題意識を高めることは、食の安全と、食糧自給率の向上の意識へつながるだろう。 ・スローライフの促進
団体	群馬県	日本愛妻家協会	嬭恋村の村名の由来と「愛妻家」をキーワードに、観光・農業などの面での交流人口の増加など、嬭恋村の活性化のために取り組んでいる。毎年、「キャベツ畑の中心で妻に愛を叫ぶ」などのイベントを実施して、嬭恋村のPRを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニークな発想と工夫を凝らしたPR作業を評価。何よりも楽しく笑顔で活動しているのは、これからの日本の地域づくりには不可欠。
団体	富山県	金屋町まちづくり推進協議会	歴史と街並みを生かしたまちづくりと、鋳物などの伝統産業による地域活性化に向けた活動を行うことで、鋳物文化の中心である金屋町で生活する住民が、金屋町の歴史と文化を学び、郷土愛を育む契機とし、イベントなどの取り組みを通して、市民のみならず全国に地域の魅力を発信することを目的とした活動を展開している。	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の中心的役割を女性が担い、多くの関連団体や行政、大学とのコラボレーションをとり、まちなみの保存と次世代の子どもたちに伝統を継承することに努めている。 ・まちなみ保存について官民一体となって前向きに取り組む、古い中にも新しい体質に変え維持する姿勢を評価。

団体	富山県	黒川町内会	町内会として、黒川地区が有する地域資源と歴史遺産を活かしたまちづくりにより、地域の活性化を図るため、「穴の谷の霊水」及び周辺の管理・運営や炭焼き窯などを使っての体験事業などグリーンツーリズムの推進などの活動を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「名水と歴史の郷」をコンセプトにして、「穴の谷の霊水」の資源をベースに、桜の森づくりや炭焼き窯などの体験事業により、グリーンツーリズムを推進している。過疎地域からの脱却を図ろうとしている。 ・自然を活かした地域づくり。過疎化していく中、町内会全員で「明るく美しい霊水の里」をキャッチフレーズに伝統文化を維持する等積極的に活動を展開している点を評価。
団体	石川県	雪だるま倶楽部	過疎化が進展する白峰地域において、活性化に向けて地域の若者が立ち上がり、住民総参加のもとで雪だるままつりを平成2年に開催し、今では石川県の冬の風物詩に位置付けられている。その若者達を中心として、雪だるま倶楽部が組織されたが、第二の村おこし作戦として、平成19年から古民家再生を兼ねた雪だるまカフェを開設している。	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化を食い止めようと若者が立ち上がった点を評価した。 ・雪だるまという素朴なコンセプトをうまくアピールした町おこしである。
団体	長野県	株式会社南信州観光公社	南信州地域への体験型観光ツアーの受入を切り口とし、地域内外の人々が交流する仕掛けを創り出すことにより、地域内経済の活性化を図るとともに、交流から育まれる地域住民の意識向上・自信回復を支援し、地域の振興を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光と広域観光による地域振興を目指して、行政や企業・団体が協力して組織を立ち上げ、それぞれが連携しながら独立採算による下伊那地域全体のブランド力強化につなげている点が評価される。他地域への波及効果も高い。 ・飯田市は公民館運動が盛んで手づくりのホスピタリティ精神が豊かである。その地域ならではのツーリズムのメニューを独自に開発している点を評価。 ・体験型観光の創造。多くの人をネットワーク化し巻き込んで実施している。 ・成果を積み上げている点 ・地域産業おこしの1つのモデルとして今後も期待している。
団体	三重県	特定非営利活動法人生活バス四日市	平成14年5月のバス路線廃止は、高齢者を中心に日常生活に大きな影響を与えることとなった。このような中、地域住民の交通手段を守るために、住民が主体となり住民が真に必要なとする公共交通の運行に向け、NPO法人「生活バス四日市」を設立。地元企業との協働のもとに、全国ではじめてNPO法人による地域密着型コミュニティバスの運行を実現した。	<ul style="list-style-type: none"> ・単独でのコミュニティバス経営は様々な困難が伴うが、二次交通の確保は「街の元気づくり」の様々な鍵とも言える重要な策であるため、こうしたチャレンジを是非他の地域へのエールとしても成功させて広めて頂きたい。 ・全国で初めてのNPO法人による「生活バス四日市」の取組を参考に、全国的に広がる事を期待したい。高齢者には大変助かるであろう。
団体	京都府	京都学生祭典実行委員会	毎年新しい実行委員会（学生組織）を立ち上げ、新たなコンセプトのもと、企画・運営・営業・広報・警備まですべてを学生が行う、京都学生祭典本祭を開催。産学公地域がともに携わることで、企業や地域の活性化、人と人とのつながりの形成など、地域の活性化と学生の成長を同時に達成する学生プロデュースの市民祭に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都三大祭りに加える新しい時代の祭りとして、若い世代が主体になり地域と密着した形で実施されている。地域づくりを住民と協働して定着させている点が、「学生の街 京都」の誇りを感じさせ、継続性を強く読み取れる。決して単発イベントではない日常的な積み重ねがある。 ・4年という限られた年限しか住まない学生たちはなかなか地域コミュニティに馴染めないことが多い。一方、地域も学生たちの若いエネルギーと一緒にあってコミュニティを作るきっかけを見つけるのが難しい。この活動はそのきっかけを作るものと評価。 ・学生中心の組織は継続性が低いと言われているが、産・学・官・地域が携わる事は画期的取組で評価したい。

団体	兵庫県	特定非営利活動法人 芸術と計画会議	老朽化し廃ビル状態であった施設を現代美術の作家が中心となり作品制作の場として公開。また、展覧会、ワークショップ、コンサート、上映会など、様々なプログラムを実施することで、人とアートの関係性を見つめ直し、美術館とは違う形でアートに接する機会を市民に提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、アーティストたちが積極的にまちづくりに参画し、老朽化していたビル（旧神戸移住センター）を再生、現在は港に近い場所で活動、神戸のまちづくりをリードしている点を評価。 ・都市の再生、再利用による活性化、また、アーティスティックなまちづくりは神戸の地のイメージとマッチしている。
団体	兵庫県	コウノトリ野生復帰推進連絡協議会	コウノトリの野生復帰に向けて関係団体が連携しながら、環境創造型農業の推進や河川の自然再生、里山林整備など環境整備に取り組み、コウノトリの野生復帰への第一歩となる試験放鳥を行うなど、コウノトリの生息環境の整備について取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「コウノトリが生息できる環境は人にとっても良好である」との認識に基づき、田園の再生など環境整備や普及啓発、都市との交流による観光振興といったさまざまな取組を、住民や行政、団体等が一体となって実施し、自然環境の保全のみならず、地域全体の活性化につながっている点が評価できる。 ・自然環境の再生に対する地域ぐるみの協力と努力、また、その結果として産業再生にもつながっている。安心・安全そして地球に優しい取組はこれからのシンボルともいえる。 ・参画と協働、1つのモデルとしても評価したい。 ・夢があることが何よりも評価
団体	鳥取県	有限会社 安達商事	購買人口の減少により撤退した生協及びJ Aの店舗を引き受け、地域の雇用と住民の利便性を確保すると共に山間集落での生鮮食料品等の移動販売を行っている。また、全国初となるコンビニ商品の移動販売を始めるなど、交通手段を持たない山間地集落の高齢者等の生活を支えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化、高齢化の村を救う試みで、商売ではあるが、独居老人を訪ねるなど地域に密着した見守り活動は、中山間地域の高齢者支援のモデルとなる。 ・地域規模に合った適性なコミュニティビジネスを探ることは、まちづくりの中でも大切な視点となっている。地域に適性適切なスケールを経営戦略として、多様な手法を編み出している。今後も是非とも期待したい。
団体	岡山県	倉敷市インクルージョン推進事業全体協議会	支援の必要な子どもたちを地域の中で自然に育てていくことを目的とし、障害児等が地域（中学校区）において、企業、ジョブサポーター（仕事体験のサポーター）等の協力を得て、放課後週1回程度「仕事体験（ぶれジョブ）」を行うことによって、将来の就労等につなげる市民活動を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な子どもたちを仕事体験によって育成する。そして将来の就労につなげていく前向きな取組が評価できる。子どもの自発的な行動を促すことと周囲の温かい理解が必要だろう。 ・学校、家庭、地域、企業の連携によるインクルージョン教育の実践モデル。
団体	福岡県	特定非営利活動法人 北九州ピオトップ・ネットワーク研究会	若松区の山、川、海、里地を流域一体で環境学習の資源・財産として捉え、「環境改善まず地域から」を合言葉に、一般市民参加型の環境保全イベントの定期的な開催、シンポジウムやフォーラムの開催を通じて流域一体の環境改善とともに市民の環境に対する意識の向上を目的とした取り組みを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲な取組とともに研究等にも貢献し、市民の意識の向上につながっている点 ・今後期待できる点
団体	福岡県	特定非営利活動法人 つどいの広場いづか	0歳～18歳までの全ての子どもたちの居場所作りを目指し、乳幼児とその保護者の居場所、障がいのある子どもとその保護者の居場所、高齢者と子どもたちのふれあいの場を提供するとともに、子どもたち自身が企画・活動する場を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・こども・保護者・高齢者がふれあい、子どもたち自身が企画し活動することで、子どもたちの魅力ある居場所を作るアイデアが良い。 ・公立幼稚園の廃園に伴い、市と住民が協働で自主運営し、子どもの居場所づくりだけでなく、高齢者、障害者、子育て中の親などの幅広い交流の場となっている。 ・子育て支援、不登校の子の居場所など今日の社会課題に取り組み、着実に成果を上げつつある。

区分	都道府県名	団体・個人名	概要	コメント
地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)	北海道	標津町	<p><HACCPによる安全な食品生産></p> <p>平成12年に町内の漁業者、加工業者、運送業者など地域が協働で高度衛生管理システム(HACCP方式)を創り上げ、安全な食品供給体制を確立した。さらに、地域ハサップ体験ツアーをはじめとする漁業体験活動を中心としたエコ・ツーリズムに取り組み、積極的に修学旅行の受入れ等を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水産業と酪農業を基幹産業とする町として、高度衛生管理システムを創り上げ、環境と調和した安全食糧供給基地としての取り組みは、現在の社会課題を解決するためにも先駆的で他の範になる。 エコツーリズムの実践
地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)	宮城県	栗原市 ※H17.4新設 築館町、若柳町、栗駒町、高清水町、一迫町、瀬峰町、鶯沢町、金成町、志波姫町、花山村	<p><都市と農村の融合した観光振興></p> <p>都市と農村が融合し、住民が自然と共生する「くりはら田園観光都市」を実現すべく、地域に古くから伝わる歴史、生活文化、食、伝統芸能等の資源をボランティアの協力を得ながら発掘し、観光資源マップを作成する等により資源を生かした観光振興を進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源の調査や活用のため観光行政と一体的な調査研究を行うとともに、さまざまな市民や団体が参画しながら、人づくりにも重点を置き、合併後の新しい市づくりにもつながっている点が評価される。 田園観光都市をめざしてのさまざまな取り組みを評価するが、それらが震災で途切れることのないよう、応援したい。 栗原市は宮城県の中でも有数の農業が盛んな地域で、豊かな食文化と伝統文化が継承されている。これを観光資源として活用しようとしている試みを評価。 人口の3分の1という高齢者が多い地域であるが、諸々のイベント、観光振興、地域づくりを行い「くりはら」を活用しながら前向きに取組を進める等「頑張る地方応援表彰」にふさわしい地域といえる。 合併後、市民参加のもとに、短期間で広範囲に取組を実施し、成果をあげている点を評価。 震災後も、地域の絆を深め地域づくりにとりくんでいる点を評価。
地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)	茨城県	大子町	<p><定住促進と読書のまちづくり></p> <p>自らの費用で住宅を建築する意志のある町外の人に対し、「山田ふるさと農園」として町有地を20年間無償で貸し付け、遊休農地の活用を図るとともに定住・二地域居住を促進している。また、「読書の町宣言」をし、町内全ての小・中学校で「朝読」を実施するなど、心の豊かさを育てるまちづくりを推進している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと農園を20年間無償で貸し付ける制度は、県外にも開かれた就農機会を提供する試みとして評価できる。 定住、二地域居住を推進する独自の取組や「読書」を通じた情操教育が、地域に根ざして、よりよいまちづくりに発展している点が評価できる。 フランスのグルノーブル市では全ての新生児に優れた絵本作家のオリジナル作品をプレゼントしているという。忘れ去られがちな読書を通して、家族や地域のコミュニケーションを高めている点を評価。 ユニークな定住促進策

<p>地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)</p>	<p>群馬県</p>	<p>上野村</p>	<p><定住促進> 平成元年度以降、種々の制約にとらわれないよう国庫補助を受けずに村単独で村営住宅を整備し、また生活補給金や結婚祝金、住宅資金利子補給や保育の定額実施、特産品開発による雇用創出等によりUIターン者を積極的に受け入れる体制を整えた結果、定住者が全人口の10%強にあたる160人を数えるほどとなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化をくい止めようと、UIターンを受け入れるためにさまざまな整備と創出を行い、その成果が表れている。山村の頑張りを評価。 ・村の人口増加の実績は評価できる。他地域でも参考になる。 ・単費での経営判断は多くの住民理解のもとに為されたものと考えられる。それらを支える粘り強い意志が、地域に必然としてある現状を読み取ることが可能となる。こうした活動の重要性を評価。
<p>地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)</p>	<p>山梨県</p>	<p>北杜市 ※H16.11 新設 明野村、須玉 坂町、大泉村、 白州町、武川村 ※H18.3 編入 北杜市、小淵 沢町</p>	<p><太陽光発電による環境保全> 日照時間日本一という特徴を生かし、太陽光発電システムを構築し、実証研究を進めている。システム設置により、市民有志による協議会が設置されるなど、環境に関する市民の関心も高まりつつあり、太陽光発電を生かした地域づくりを展開し、市民参加の環境教育に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日照時間日本一の特徴を活かした太陽光発電システムの推進による地域づくりは、市民に身近に感じられる環境教育の一環として評価できる。また代替エネルギー問題へのアプローチとしても時機を得ている。 ・長期的展望に立って、地域を広域でつなぎながらまちづくりテーマを掲げ、まちづくりを推進していくことは近年なかなか厳しい一面が存在している。そうした難問を解くためにも、普遍的なテーマを基本に置いて次世代へバトンを譲っていくシステムとその姿勢を高く評価したい。 ・地球環境保全新燃料の活用がこれからは重要でそのさきがけとなる。
<p>地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)</p>	<p>香川県</p>	<p>小豆島町 ※H18.3 新設 内海町、池田 町</p>	<p><地元特産品のブランド化及び観光振興> 日本での生産量の9割以上を占めるオリーブのブランド化を進めるため、平成10年からオリーブ生産に関する各種助成や栽培指導、特区認定による企業参入の促進等により地域全体で生産拡大を図り、また新商品の開発にも積極的に取り組んでいる。オリーブの収穫やオリーブのクラフト作りなど体験型観光にも取り入れ、オリーブを中心としたまちづくりを進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリーブ発祥の地として、生産拡大やブランド化に努めるとともに、オリーブというブランドの確立と、地域イメージ向上を果たし、さらに産業の発展へと波及させていく姿勢が評価できる。 ・オリーブ発祥の地としての100年間の取り組みと、オンリーワンのブランドの確立をめざす姿勢に発展性を期待する。 ・小豆島は昔からオリーブの生産で知られているが、その強化を図り、さらにブランド化していこうという試み、また県内産のこだわりを評価。

<p>地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)</p>	<p>宮崎県</p>	<p>宮崎県</p>	<p><県民一体となった宮崎PR> 知事が提唱する「県民総力戦」の理念のもと、「おもてなし日本一の宮崎」づくりを目指して観光振興・定住促進に取り組むと共に、知事のトップセールスにより知名度の向上した農林水産物の生産拡大、「中山間地域対策」として中山間地域が果たす役割を都市部に普及啓発するとともに、その地域住民が意欲的に地域づくりに取り組めるよう仕掛けづくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顕著なトップセールスの実践とそれによる波及効果。 ・知事が積極的にPRし今までの殻を脱皮し、地域住民も意欲的に動き、全ての点で経済効果があがった点を評価。
<p>地方自治体表彰 (頑張る地方応援 表彰)</p>	<p>沖縄県</p>	<p>南風原町</p>	<p><住民参加による総合計画策定> 町の総合計画策定に当たり、一貫した住民参加のプロセスのもと、公募委員による住民会議を結成し、計画原案を住民会議が作り上げ、議論の過程を徹底的に情報公開し、その案に対する住民アンケートも住民自らが作るなど、一貫して住民参画を進めた。住民会議が作成した計画案をそのまま有識者等の審議会へ諮問し、第四次総合計画として策定した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名実そろった「住民と行政の協働」を目指し、住民会議による参画型の基本計画の策定から、福祉の分野にも発展し、主体的に考え活動する住民による地域の活性化のありかたが、他の地域のモデルとなる点が評価できる。 ・現在、総合計画のあり方は、様々な議論がされているところであり、本来の地域自治の視点に立ち帰り、自らの言葉で編み出して行こうとするその姿勢は大切なまちづくりの原点である。ステップを進め、今後の実践への手法等も期待したいところである。

区分	都道府県名	団体・個人名	概要	コメント
個人	福島県	皆川トメ子・山内サトミ	<p>両氏は、昭和村に綿々と受け継がれてきた「からむしだけは絶やすなよ」という言葉をかたくなに守り、農業のかわら「からむし」を栽培、製品づくりをしている。</p> <p>また、地域内の活性化と後継者育成の一環として平成6年度に創設したからむし織体験生制度では、企画段階から積極的に関わっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化のはなはだしい山間の村において、重要無形文化財の原料となるからむしを、本州唯一栽培し、その技を守り伝え、村全体でのからむしを通した村づくり、交流人口の拡大などに寄与している点が評価できる。 ・「からむし」を絶やさないための努力と、次世代に繋いでいくための働きを評価。農村の高齢の女性が兼業で取り組むためにはかなりの苦労があったと思われるが、その成果が着実に表れている点が素晴らしい。 ・適性素材と言われながら、時代の市場原理の流れの中で消えかけていた原生・植生を根気強く守り続けてきた熱意は類い稀なる行為である。「愛着と信念」を守るそれらの手作業による農業活動は「織姫」と呼ばれる人々（若い女性）にも心から尊敬され、その熱意を継ぎたいという継承者までを育てている。極めて高い評価に値すると考える。 ・15年にもわたる人材育成はもちろん伝承の1つのモデルでもある点を評価
個人	新潟県	羽賀 友信	<p>2004年のの中越地震の際に、被災地における外国籍被災者への支援活動より得た要請を元に市町村・地域国際化協会・JICAおよび民間等の協働による外国人の支援体制を構築。</p> <p>外国人被災者支援について各地で講演し、参画ネットシステム（被災地の外部の国際協力団体が外国籍被災者を支援する体制）の重要性を発信。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟中越、中越沖地震における外国人支援の活躍はもとより、その経験を通して、地域に市民や団体のネットワークを形成、さらに全国どこでも通じる外国人被災者支援のためのシステムの立ち上げを説くなど目覚ましい働きをされており、羽賀氏の説く日常の多文化共生社会を実践している長岡の取り組みは地域の範になる。 ・被災地への支援活動とは、かなりの困難な課題を解決しながら、現場に即し、柔軟で迅速な対応が求められる。時に、最も手立ての薄くなりがちな弱者へ向けた視点と自在で綿密な創意工夫を高く評価したい。
個人	長野県	セーラ・マリ・カミングス	<p>「小布施ッション」、木桶仕込みによる日本酒作りの復活、「1530（市ゴミゼロ）プロジェクト」、「小布施見にマラソン」など、地方にありながら、どこにも負けない小布施文化を発信することで、小布施町の人々の誇りと自信につながっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外から来た人ならではの視点で小布施の街の魅力と社会資源に気付き、高い企画力で次々に事業を展開。その行動力と実現のための調整力を評価。外国人である故の苦労もあったと思われるが、小布施に対する愛情がそれを跳ね返したであろうとも思われ、こうした人材を検証する意義がある。 ・行動力とアイデアで、埋もれていた日本文化の魅力を掘り起こし、起業を様々な文化事業に結びつけている。地域の可能性を上手に引き出していることを評価。 ・小布施町の資源開発と育成、発信への貢献。
個人	滋賀県	清水 義康	<p>イベントの開催や広報活動等によって長浜市の中心市街地への観光客誘致を積極的に進めた。平成18年に開催し66万人の入館者を集めた北近江一豊・千代博覧会等においては中心的な役割を果たし、長きにわたり観光振興・地域活性化への取組を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長浜市の観光開発への顕著な貢献 ・滋賀県湖北地区を重点的に地域活性化を図り、黒壁のまちとして広く知られ、また、盆梅展の開催を早くから始める等先駆者として高く評価。 ・永年にわたり、観光まちづくりに取り組んでいることを評価。 ・組織として力をつけている点を評価。